
2020年度第1四半期決算 及び
2020年度業績見通し

説明資料

帝人株式会社
2020年8月5日

第1四半期（1Q）における帝人グループへのCOVID-19影響と対応

4月	5月	6月
<ul style="list-style-type: none"> 自動車Tier1事業における稼働の大幅低下 その他のマテリアル事業では在庫確保のための需要あり 	<ul style="list-style-type: none"> 自動車Tier1事業では生産活動を再開するが、全般的な需要回復は緩やか 	<ul style="list-style-type: none"> 一部地域での感染者数増加が、需要回復に影響 より川上に近い素材関連事業への影響が、遅れて発現

経営戦略

- ✓ 工場の稼働調整に応じた従業員一時帰休、固定費削減推進、増設工事を含むプロジェクトの精査・実施時期の見直し
- ✓ 生産活動停止リスクを考慮した在庫の確保

業務運営

- ✓ オフィス業務の原則在宅・テレワークを継続
- ✓ 新常態における業務運営の検討に着手

社会貢献

- ✓ 予定を上回る数量の医療用ガウンの前倒しでの供給、治療薬の検討に資する医薬品供給体制の確保
- ✓ 感染症対策への知的財産権面での支援実施

主要市場別動向（2020年度）

市場	主な事業	主な地域	1Q実績 (対直前四半期)	2Q-4Q見通し	
自動車	アラミド 複合成形材料	欧州 米国	需要大幅減	徐々に回復 ^{*1}	欧州の回復は緩やか 米国は2Qで急回復後、 緩やかに回復
航空機	炭素繊維	欧州 米国	需要大幅減	低調継続 ^{*2}	航空機需要の低迷長期化で 中期的に厳しい状況継続 本格的回復は2023年以降
ヘルスケア	医薬品 在宅医療 新規ヘルスケア	日本	堅調	堅調維持 ^{*2}	受診控え・手術控えの影響や、 研究開発の遅延影響について 注視が必要

*1：IHSマーケット予測(2020年7月)，*2：自社推定

今回公表のポイント

1Q実績、通期業績見通しともに、マテリアル事業がCOVID-19影響を大きく受ける一方、ヘルスケア事業およびIT事業はCOVID-19影響が軽微であり業績が底堅く推移

■ 1Q実績

- 売上高は前年同期対比17%減の1,791億円、営業利益は同26%減の126億円
 - ✓ 自動車や航空機を重点市場とするマテリアル事業は減収・減益
 - ✓ ヘルスケア事業およびIT事業は業績が堅調に推移
 - ✓ 繊維・製品事業は医療用ガウン等の収益計上により増益

■ 通期業績見通し

- 1Q実績を踏まえて業績予想を精査の結果、通期売上高・営業利益予想は前回予想を据え置き。当期純利益は海外子会社の収益悪化に伴う税負担率の上昇により下方修正
- 前年度対比減収・減益
 - ✓ マテリアル事業はCOVID-19影響が大きく、減収・減益で営業利益赤字
 - ✓ ヘルスケア事業およびIT事業は堅調な収益力を維持
 - ✓ 繊維・製品事業は通期でも増益の予想

-
1. 2020年度第1四半期決算 P. 5
 2. 2020年度業績見通し P.13
 3. 参考資料 P.23

見通しに関するご注意

当資料に記載されている内容は、種々の前提に基づいたものであり、記載された将来の計画数値、施策の実現を確約したり、保証するものではありません。

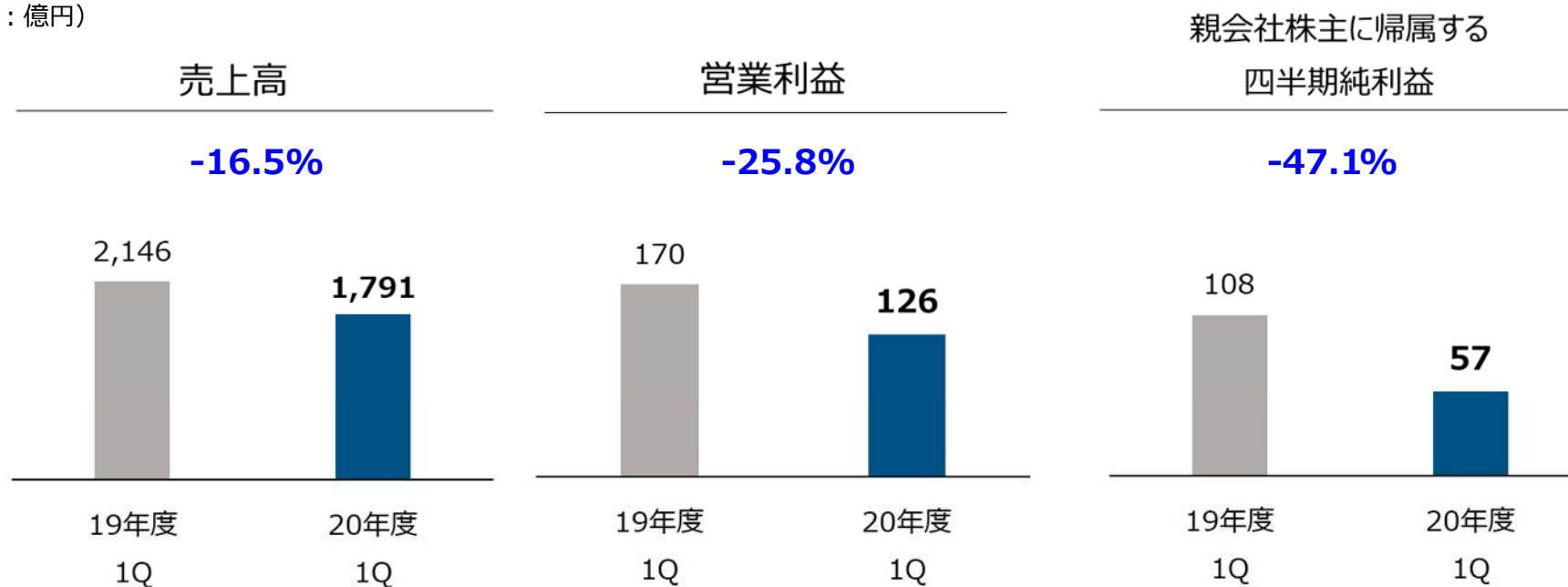
本資料は2020年8月5日午前11時30分に公表した弊社決算に基づくものです。

1. 2020年度第1四半期決算

◆ 実績ハイライト [前年同期対比]

- マテリアル事業において重点分野である自動車・航空機用途を中心とした需要減の影響を大きく受けるとともに、ヘルスケア事業も薬価改定影響があり減収
- 営業利益は、繊維・製品事業における医療用ガウン等の収益計上や好調なIT事業による増益はあったものの、全体ではマテリアル事業の減少影響が大きく減益
- 海外子会社の収益悪化に伴う税負担率の上昇もあり、四半期純利益が大きく減少

(単位：億円)



◆ 実績サマリー [前年同期対比]

	(億円)			
	19年度 1Q	20年度 1Q	差異	増減率
売上高	2,146	1,791	-355	-16.5%
営業利益	170	126	-44	-25.8%
営業外損益	-1	-1	-0	-
経常利益	169	124	-44	-26.2%
特別損益	-18	-14	+4	-
税金等調整前 四半期純利益	151	110	-40	-26.8%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	108	57	-51	-47.1%
<hr/>				
ROE ^{*1}	10.6%	5.7%	-4.9%	
営業利益ROIC ^{*2}	10.3%	7.8%	-2.5%	
EBITDA ^{*3}	294	256	-39	

*1 「親会社株主に帰属する四半期純利益÷期首・期末平均自己資本」にて算出

*2 「営業利益÷期首・期末平均投下資本」にて算出
(投下資本 = 純資産 + 有利子負債 - 現金及び預金)

*1,2は年換算後の数値

	(億円)			
	19年度 1Q	20年度 1Q	差異	増減率
設備投資 ^{*4}	140	131	-8	-6.1%
減価償却費	125	130	+5	+3.8%
研究開発費	79	74	-5	-6.8%

◇ 為替・原油価格

		19年度	20年度
		1Q	1Q
PL換算レート	円/米ドル	110	108
	円/ユーロ	123	118
原油(Dubai)価格 (米ドル/バレル)		67	31

*3 「営業利益 + 減価償却費 (のれんを含む)」にて算出

*4 設備投資には無形固定資産を含む

◆ マテリアル事業領域 [前年同期対比]

(億円)

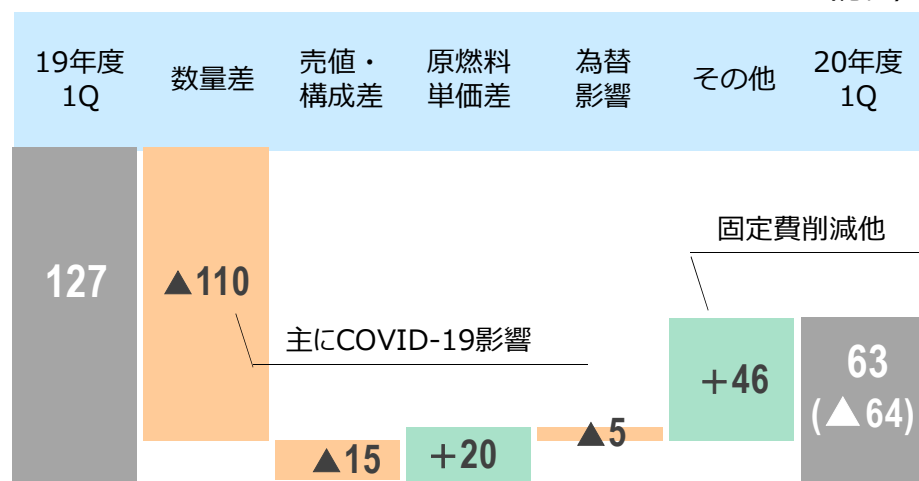
	19年度 1Q	20年度 1Q	差異	増減率
売上高	861	539	-322	-37.4%
EBITDA	127	63	-64	-50.5%
減価償却費	71	77	+6	+8.5%
営業利益	56	-14	-70	-
営業利益ROIC	7%	-2%	-9%	

COVID-19の影響大

- アラミド繊維
 - 光ファイバー用途は堅調の一方、タイヤ補強材や摩擦材等の自動車用途の需要減により販売量減少
- ポリカーボネート樹脂
 - 中国での需要は回復するも、他地域での需要が大きく減少
- 炭素繊維
 - 航空機用途を中心にほぼすべての用途において販売量が減少
 - 中間材料開発や米国新工場建設等の先行投資継続
- 複合成形材料
 - CSP* 社の顧客である自動車メーカーの稼働低下に伴い、販売量が減少
 - SUVやピックアップトラックを中心に稼働が回復し、CSP社の稼働も徐々に回復

<EBITDA増減内訳>

(億円)



* Continental Structural Plastics Holdings Corporation

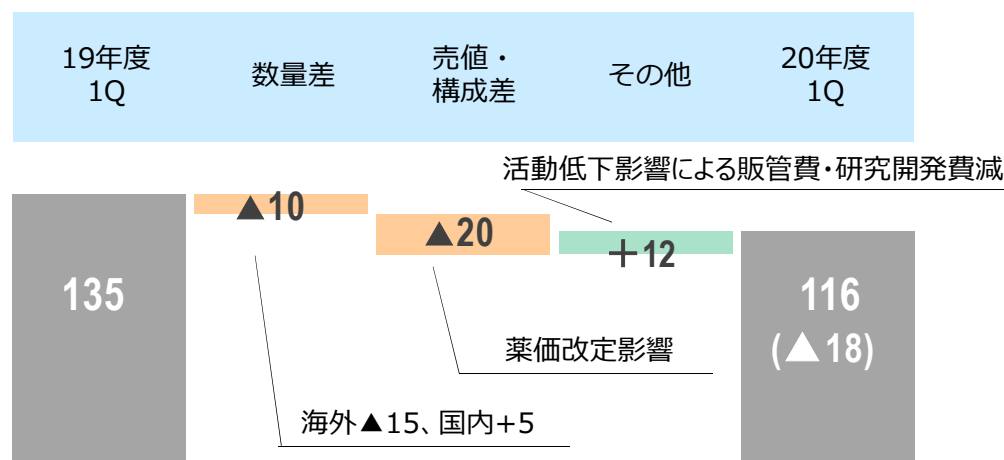
◆ ヘルスケア事業領域 [前年同期対比]

(億円)

	19年度 1Q	20年度 1Q	差異	増減率
売上高	398	362	-37	-9.2%
EBITDA	135	116	-18	-13.7%
減価償却費	30	30	-0	-0.3%
営業利益	105	87	-18	-17.5%
営業利益ROIC	51%	46%	-5%	

<EBITDA増減内訳>

(億円)



COVID-19の影響は軽微

■ 医薬品

- 高尿酸血症・痛風治療剤「フェブリク」を中心に国内での2020年4月の薬価改定の影響を受けた
- 「フェブリク」や先端巨大症・下垂体性巨人症/神経内分沁腫瘍治療剤「ソマチュリン*」の販売量は順調に拡大

■ 在宅医療

- 睡眠時無呼吸症候群治療におけるCPAPのレンタル台数は伸長したものの、COVID-19影響による受診抑制に伴い入院検査数が減少
- 在宅酸素療法（HOT）市場においては、病院内の感染回避のため在宅医療導入が選択されるケースが増加し、レンタル台数が増加

■ 新ヘルスケア

- 人工関節・吸収性骨接合材等の埋め込み型医療機器事業はCOVID-19影響による手術延期の影響あり

*ソマチュリン®/Somatuline®は、Ipsen Pharma（仏）の登録商標です

◆ 繊維・製品 [前年同期対比]

(億円)

	19年度 1Q	20年度 1Q	差異	増減率
売上高	738	716	-21	-2.9%
EBITDA	27	66	+39	+146.1%
減価償却費	17	15	-2	-10.4%
営業利益	10	51	+41	+424.3%
営業利益ROIC	3%	15%	+12%	

◆ IT [前年同期対比]

(億円)

	19年度 1Q	20年度 1Q	差異	増減率
売上高	109	135	+26	+24.1%
EBITDA	15	22	+7	+45.1%
減価償却費	2	2	-0	-13.0%
営業利益	13	20	+7	+54.9%
営業利益ROIC	33%	50%	+17%	

■ 繊維・製品

- 衛材用の原綿、不織布および感染予防に向けたヘルスケア関連製品（医療用ガウン等）が貢献
- COVID-19影響により、テキスタイル、重衣料および自動車関連部材は苦戦
- インフラ補強材や水処理膜向けのポリエステル短繊維の販売が好調維持
- 在宅勤務の拡大、経費削減努力で販管費減少

■ IT

- 電子コミック配信サービスが好調に推移。在宅時間の増加で需要が拡大

◆ 営業外損益 [前年同期対比]

(億円)

	19年度 1Q	20年度 1Q	差異
受取利息	3	2	-1
受取配当金	6	5	-1
持分法による投資利益	4	2	-2
為替差益	15	-	-15
その他	2	4	+2
営業外収益 計	29	13	-16
支払利息	9	8	-1
デリバティブ評価損	17	2	-14
その他	4	4	-0
営業外費用 計	30	14	-16
営業外損益 計	-1	-1	-0

◆ 特別損益 [前年同期対比]

(億円)

	19年度 1Q	20年度 1Q	差異
投資有価証券売却益	37	0	-37
その他	0	0	+0
特別利益 計	37	1	-37
投資有価証券評価損	-	9	+9
減損損失	17	-	-17
事業構造改善費用	34	-	-34
その他	4	6	+2
特別損失 計	55	15	-41
特別損益 計	-18	-14	+4

◆ 財政状態 [前年度末対比]

	(億円)			内 為替 換算影響
	20年 3月末	20年 6月末	差異	
総資産	10,042	10,049	+7	+23
負債	5,928	5,880	-48	+18
(内 有利子負債)	3,819	3,914	+95	+13
純資産	4,114	4,169	+55	+5
D/Eレシオ	0.97	0.98	+0.01	-
現預金等	1,565	1,613	+48	

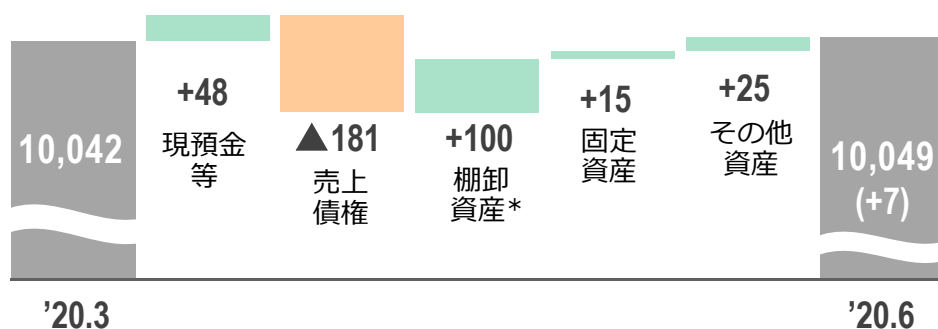
◆ キャッシュ・フローの状況 [前年同期対比]

	(億円)		
	19年度 1Q	20年度 1Q	差異
営業活動	197	166	-31
投資活動	-125	-157	-32
フリー・キャッシュ・フロー	72	8	-64
財務活動他	-100	40	+140
現金及び現金同等物増減	-28	48	+76

* キャッシュ・フローについては金融商品取引法に基づく四半期レビューの対象外

◇ 総資産 増減内訳

(億円)



* アラミド、炭素繊維等でサプライチェーン保全のための在庫積み増しを実施し増加。期末にかけて減少の見通し

◇ BS換算レート

	20年 3月末	20年 6月末
円/米ドル	109	108
円/ユーロ	120	121

2. 2020年度業績見通し

COVID-19影響を踏まえた業績見通しの前提

期初公表時と比較し需要の回復時期が遅れ、より緩やかな回復

今回公表 *1

参考・期初公表時 *2

第1四半期 (4-6月)

期初対比落ち込み幅大

経済活動への影響大

第2四半期 (7-9月)

底打ち (回復遅れ)

経済活動が徐々に回復

第3四半期 (10-12月)

緩やかな回復

第4四半期 (1-3月)

回復継続するが収束に至らず

COVID-19影響は概ね収束

*1 IMF (International Monetary Fund) June 2020 を参考に自動車や航空機市場の動向を推測し業績見通し前提を作成

*2 IMF (International Monetary Fund) April 2020 を参考に経済活動見通し前提を作成

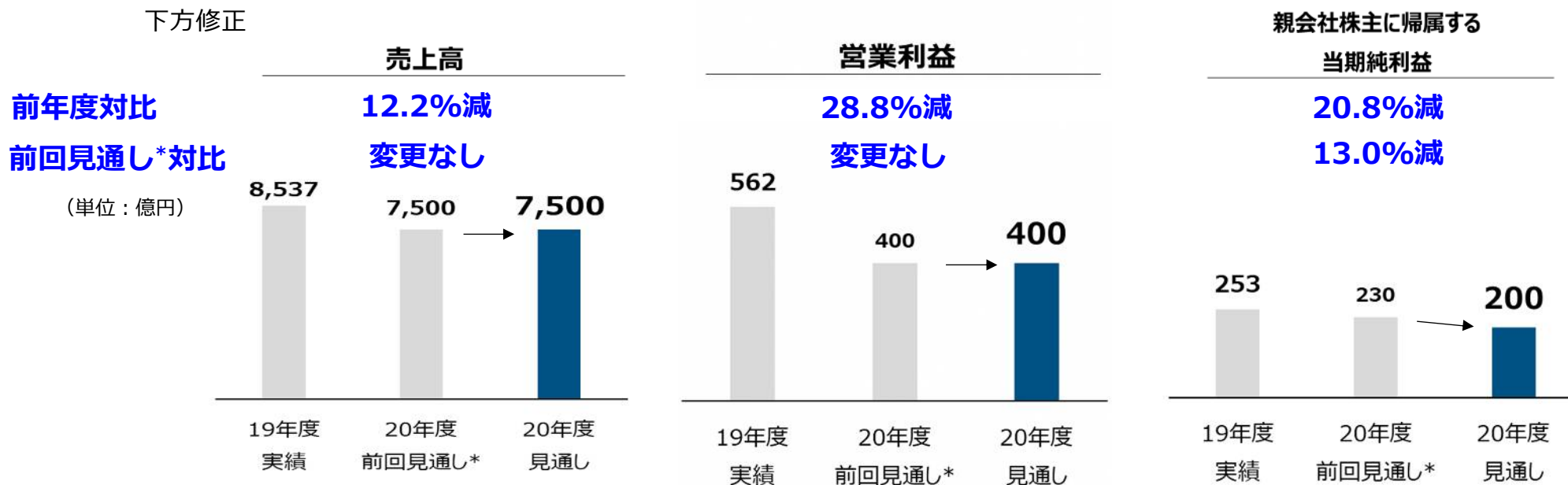
※当期における帝人グループの業績予想開示の方針

- COVID-19影響の長期化リスクにより経済の先行きが不透明な状況下、精度の高い通期業績見通しの策定は困難
- 上記前提での見通しを策定・開示するが、期中の状況をみながら適宜修正見通しを開示していく

◆ 通期見通しハイライト [前年度対比、前回見通し*対比]

■ 前年度対比で減収・減益の見通し、前回見通しに対し当期純利益のみ下方修正

- 自動車や航空機を重点市場とするマテリアル事業はCOVID-19影響を受け、前年度対比減収・減益で営業利益赤字
- ヘルスケア事業では薬価改定影響はあるものの、IT事業とともに堅調な収益力を維持し、COVID-19影響は軽微
- 前回見通しに対して、売上高・営業利益は据え置く一方、海外子会社の収益悪化に伴う税負担率の上昇により、当期純利益は前回見通しから下方修正



* 2020年5月8日公表

- 配当は、業績見通しの前提に不確定要素が大きいため、未定とする

前提条件

		19年度	20年度 前回見通し*	20年度 見通し
通期平均為替レート	円/米ドル	109	108	108
	円/ユーロ	121	120	120
原油(Dubai)価格 (米ドル/バレル)		60	30	38

2020年度配当金：中間・期末とも未定

(2019年度：中間 30円/株 期末 30円/株 年間60円/株)

◆ 通期業績見通し [前年度対比、前回見通し対比]

	(億円)	19年度	20年度	差異	増減率	20年度	差異	増減率
		実績	見通し			前回見通し		
売上高		8,537	7,500	-1,037	-12.2%	7,500	0	0.0%
営業利益		562	400	-162	-28.8%	400	0	0.0%
経常利益		543	400	-143	-26.4%	400	0	0.0%
親会社株主に帰属する当期純利益		253	200	-53	-20.8%	230	-30	-13.0%
ROE ^{*1}		6.3%	5%	-1%		6%	-1%	
営業利益ROIC ^{*2}		8.7%	6%	-3%		6%	0%	
EBITDA ^{*3}		1,072	950	-122		950	0	
設備投資 ^{*4}		686	700	+14		700	0	
減価償却費		510	550	+40		550	0	

*1 「親会社株主に帰属する当期純利益÷自己資本」にて算出

2 「営業利益÷投下資本」にて算出 * 純資産+有利子負債-現金及び預金

*3 「営業利益+減価償却費(のれんを含む)」にて算出

*4 設備投資には無形固定資産を含む

◆ セグメント別 売上高・営業利益 [前年度対比、前回見通し対比]

	19年度	20年度	差異	増減率	(億円)	
	実績	見通し			20年度 前回見通し	前回見通し との差異
売上高						
高機能材料	2,364	1,900	-464	-19.6%		
複合成形材料	912	700	-212	-23.2%		
マテリアル 計	3,275	2,600	-675	-20.6%	5,300	0
繊維・製品	3,063	2,700	-363	-11.9%		
ヘルスケア	1,539	1,450	-89	-5.8%	1,500	-50
IT	486	590	+104	+21.4%	700	+50
その他	174	160	-14	-7.9%		
合計	8,537	7,500	-1,037	-12.2%	7,500	0
営業利益						
マテリアル	158	-25	-183	-	90	-20
繊維・製品	54	95	+41	+75.5%		
ヘルスケア	326	290	-36	-10.9%	280	+10
IT	78	95	+17	+21.4%	80	+15
その他	3	0	-3	-		
消去又は全社	-58	-55	+3	-	-50	-5
合計	562	400	-162	-28.8%	400	0

【前年度対比コメント】

■ マテリアル

COVID-19影響による自動車・航空機関連用途を中心に販売量減少影響が大きく減収・減益で赤字の見通し

■ 繊維・製品

衣料繊維・産業資材共にCOVID-19影響を受けるが、医療用ガウン等の効果あり前年度対比増益の見通し

■ ヘルスケア

「フェブrik」が好調維持も薬価改定影響が大きく前年度対比減益の見通し

■ IT

電子コミックの売上が好調を継続しており、増収・増益の見通し

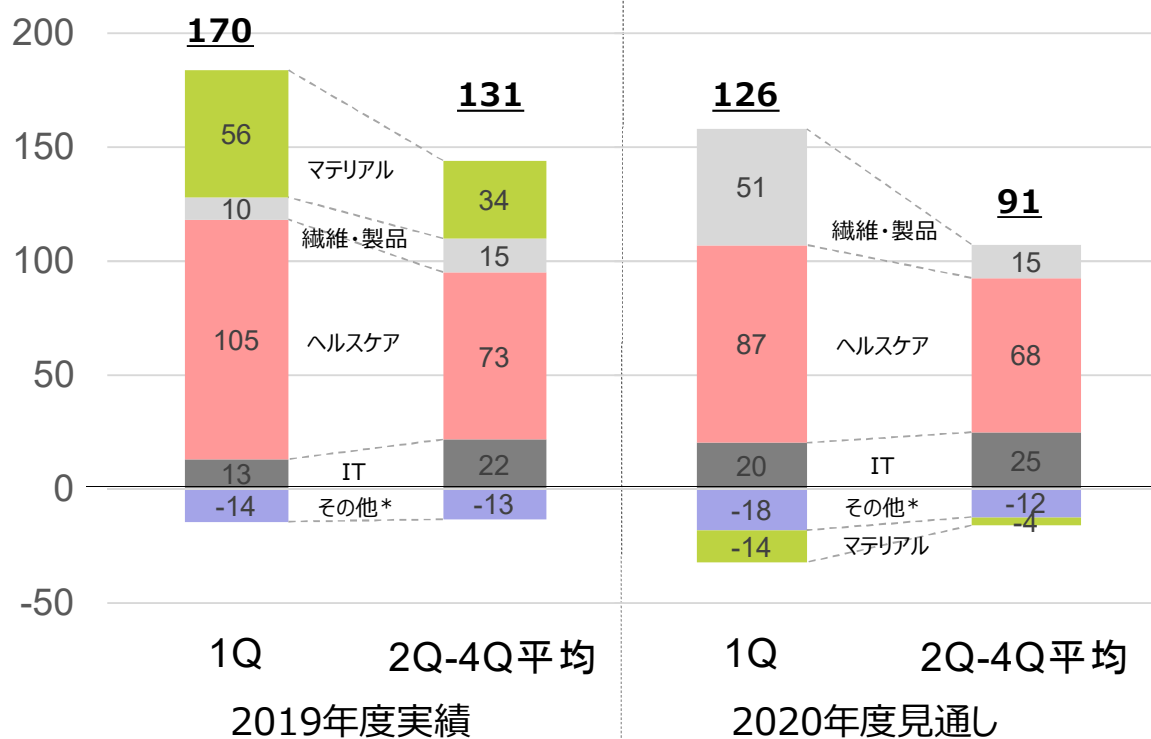
◆ セグメント別

2020年度営業利益 2Q以降の見通し

1Q実績値および2Q~4Qの四半期平均値

(億円)

全社合計(四半期)

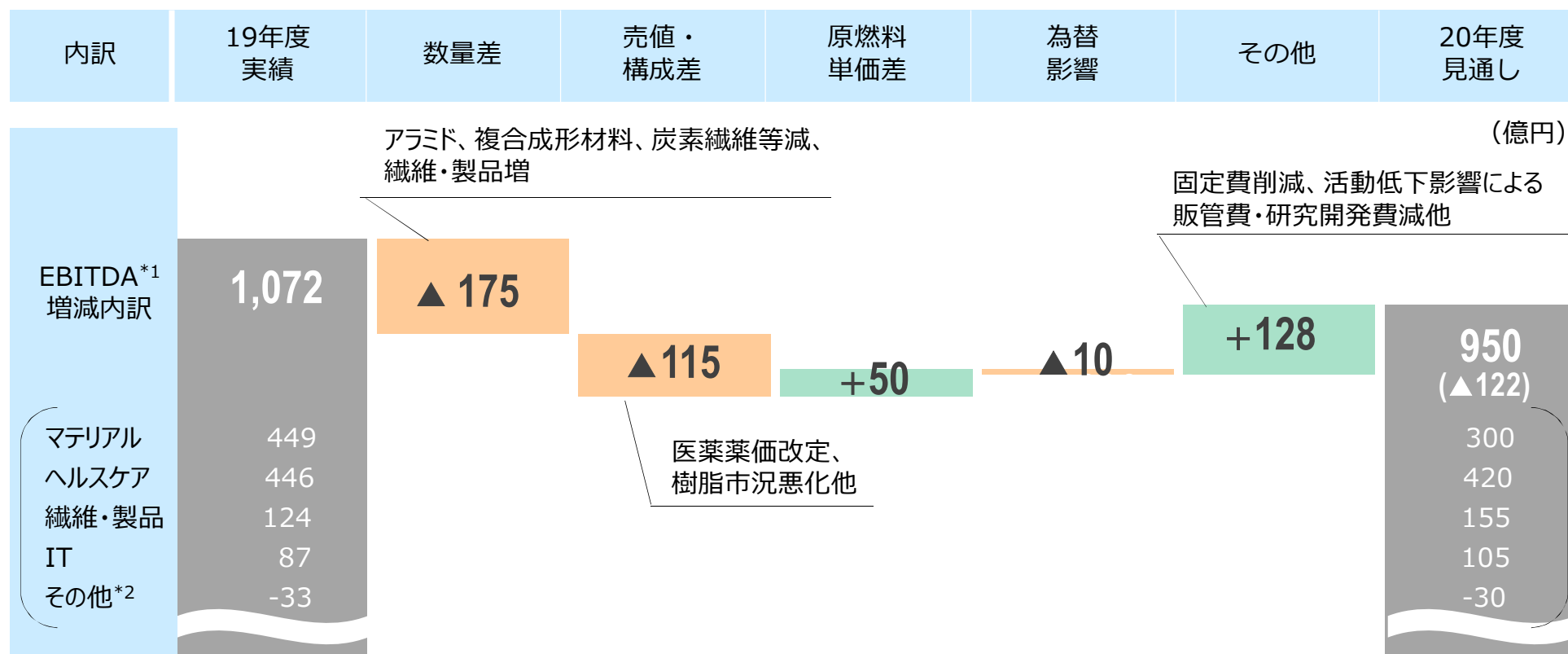


* その他は「その他」および「消去又は全社」の合計としている

- マテリアル：赤字幅が縮小方向へ
 - COVID-19影響は2Qが最も大きく、3Qから徐々に回復
 - サプライチェーン保全目的で、1Qに在庫積み増ししており、2Q以降稼働抑制あり
 - 2Q以降活発化する開発費などの先行投資費用、2Q・3Qの樹脂定修や季節要因により増益幅は限定的
- 繊維・製品：低調な推移へ
 - 医療用ガウン等の貢献で1Qは前期対比増益。ガウン等の貢献は2Qまで続く見通しだが、通常のビジネスはCOVID-19影響により低調に推移
- ヘルスケア：前年度と同じ傾向
 - 「フェブリク」や在宅医療の販売は堅調継続だが、4Qに研究開発費が集中し、2Q~4Q平均の営業利益は低下
- IT：好調継続
 - 好調な電子コミックにより成長を継続

2020年度業績見通し EBITDA増減要因

- マテリアルのCOVID-19影響による自動車・航空機向け販売の減少やヘルスケアでの薬価改定影響が大きく、堅調なヘルスケアの販売やITおよび繊維・製品での医療用ガウン等の貢献があったものの、EBITDAは減少

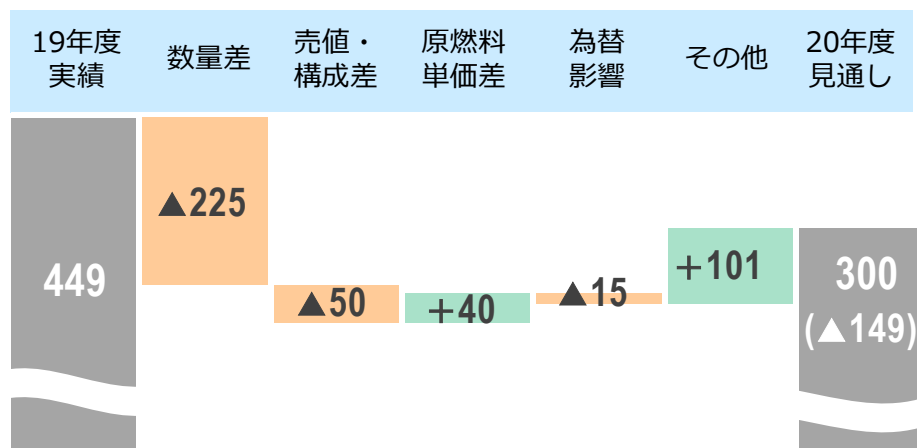


*1 「営業利益 + 減価償却費（のれんを含む）」にて算出 *2 その他はその他および消去又は全社の合計としている

2020年度業績見通し EBITDA増減要因

■ マテリアル

(億円)



● 数量差

すべての分野（アラミド、樹脂、炭素繊維、複合成形材料）で需要低下により減少

● 売値・構成差

樹脂は売値低下で、炭素繊維は販売構成悪化で減少、アラミドは維持

● 原燃料単価差

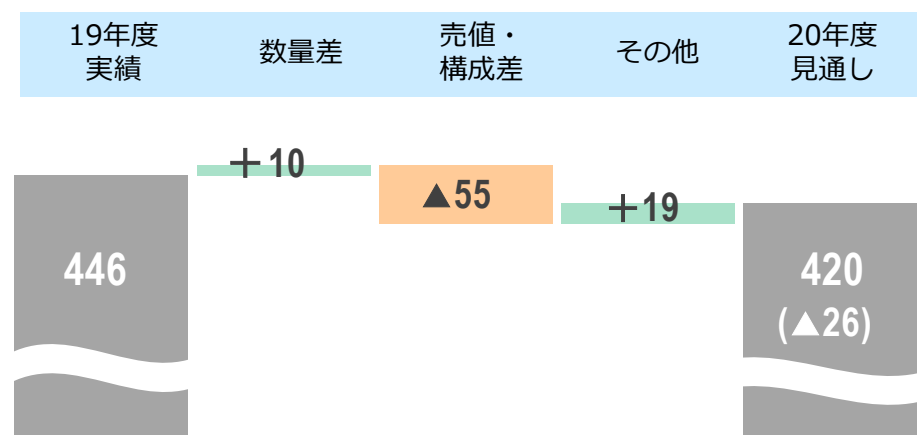
単価下落により、すべての分野で増加

● その他

固定費減少と削減による増加

■ ヘルスケア

(億円)



● 数量差

国内：+35（「フェブリク」、在宅医療他で増加）

海外：▲25（海外医薬後発品影響で減少）

● 売値・構成差

薬価改定影響による減少、海外価格調整で増加

● その他

活動低下影響による販管費・研究開発費減で増加

- ◆ 業績指標
- ・マテリアル事業がCOVID-19影響を大きく受け、ROE、営業利益ROIC、EBITDAともに前年度対比悪化
 - ・COVID-19影響による収益低下状況から早期に脱却し、中期2022年度計数目標の達成に向けてさらなる対策を実行する。ただし、中長期の戦略的方向性は不変

	前中期計画 「重点分野選択」	中期計画2020-2022 「成長基盤確立」	
	19年度実績	20年度見通し	中計最終年度 (22年度目標)
ROE ^{*1}	6.3%	5%	10%以上
営業利益ROIC ^{*2}	8.7%	6%	8%以上
EBITDA ^{*3}	1,072億円	950億円	1,500億円

*1 「親会社株主に帰属する当期純利益÷期首・期末平均自己資本」にて算出

2 「営業利益÷期首・期末平均投下資本」にて算出

*投下資本 = 純資産 + 有利子負債 - 現金及び預金

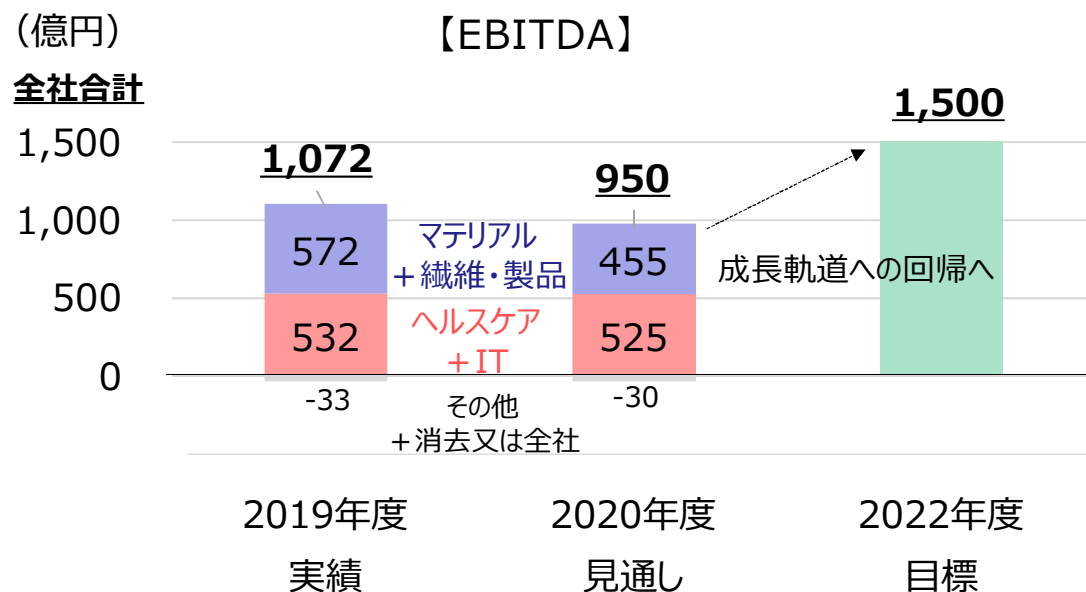
*3 「営業利益 + 減価償却費 (のれんを含む)」にて算出

中期計数目標達成にむけて

【短期的取り組み】

マテリアル事業のCOVID-19影響からの早期脱却と対策実行
ヘルスケア事業の着実な計画達成

- ✓ 需要回復に対する遅滞ない生産・販売活動の推進と、固定費削減等による収益性の早期改善
- ✓ 市場環境を踏まえた、投資活動の継続と適切なスピード調整



【中長期方針（COVID-19による新常態下）】

帝人グループが取り組む重要社会課題に変更なし
新常態下の社会ニーズは中長期方向性と一致

「グリーンリカバリー」の潮流

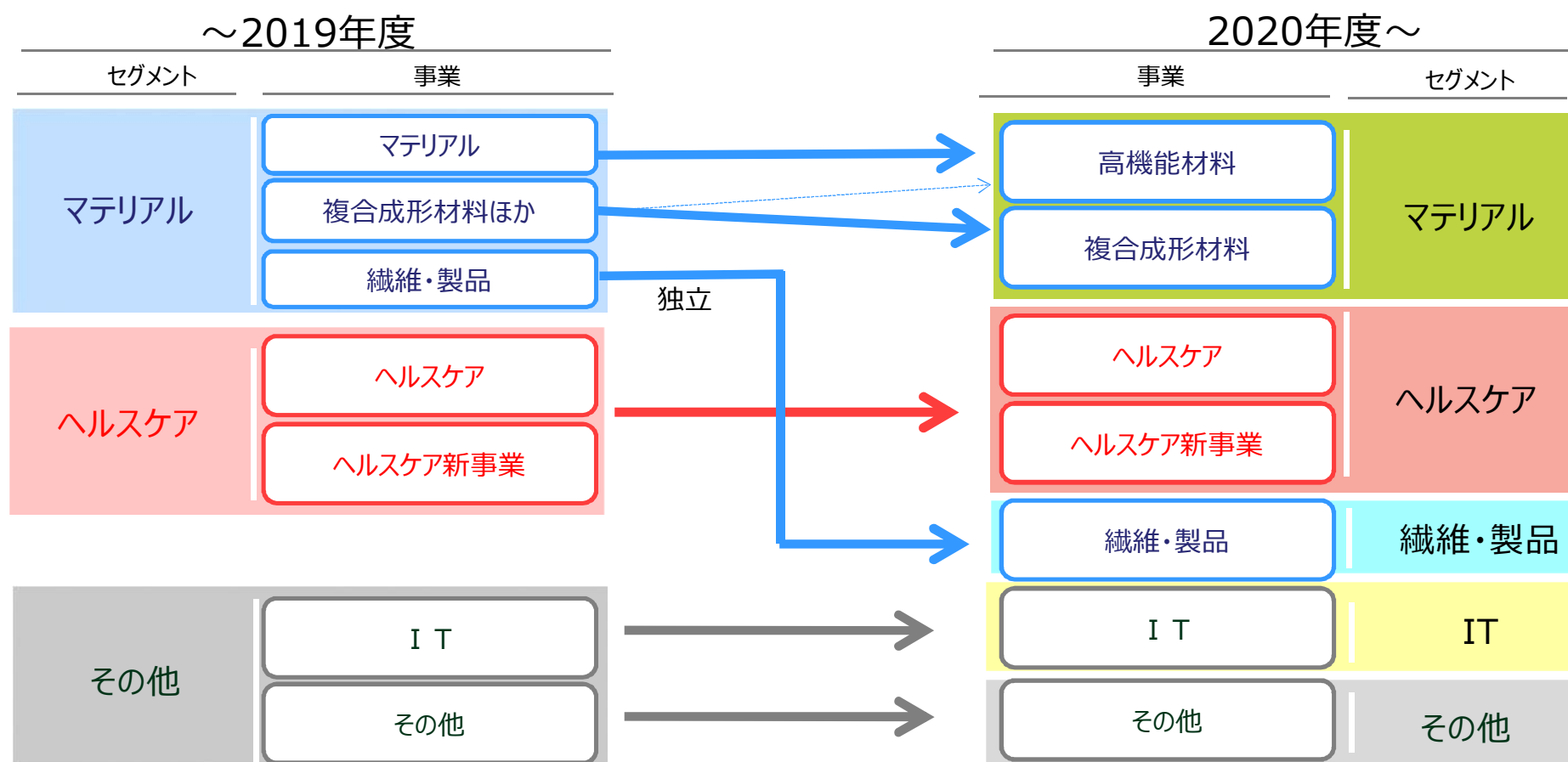
- モビリティの軽量化・効率化
- 高機能・軽量化素材への置き換え需要
- デジタル化社会への加速→ 5G本格化
- 在宅医療～地域包括ケアの推進
- オンライン医療サービスのニーズの高まり

- ✓ 時間軸の変更は生じるも、中長期方針は不変とし、戦略を遂行
- ✓ 新常態を事業機会とする取り組みも加速

3. 参考資料

開示セグメントの変更

- 2020年度より、マテリアル事業領域から「繊維・製品」を、その他から「IT事業」を独立させた新セグメントへ
- 今回公表から新セグメントにて実績及び業績予想を開示

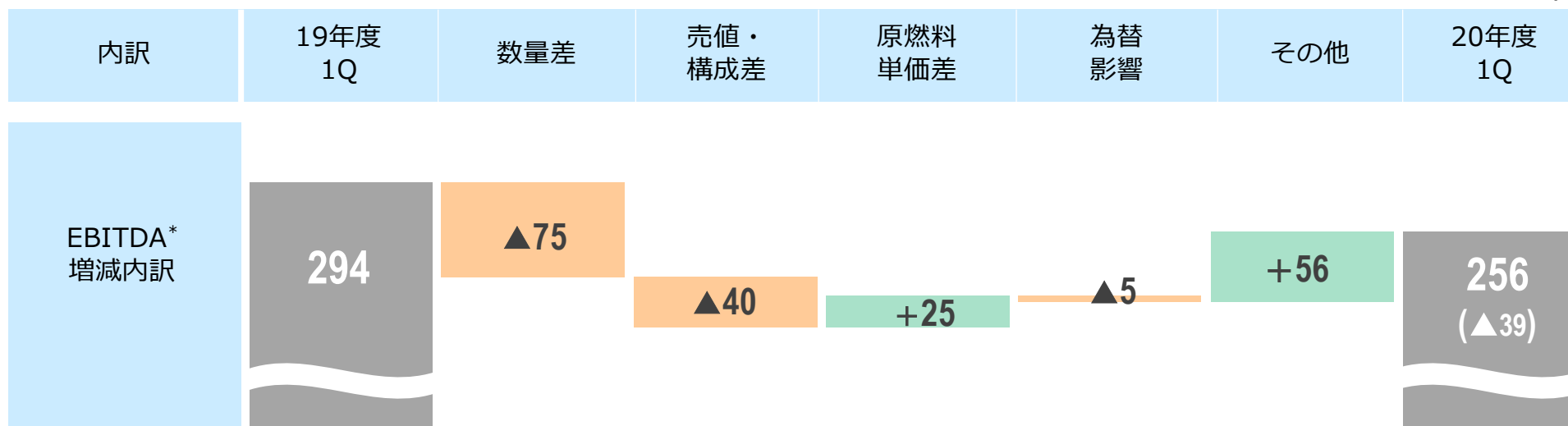


◆ EBITDA*増減（連結合計） [前年同期対比]

（億円）

	19年度 1Q	20年度 1Q	差異	増減率
売上高	2,146	1,791	-355	-16.5%
EBITDA*	294	256	-39	-13.2%
減価償却費	125	130	+5	+3.8%
営業利益	170	126	-44	-25.8%
営業利益ROIC	10.3%	7.8%	-2.5%	

（億円）



* 「営業利益+減価償却費（のれんを含む）」にて算出

◆ セグメント別 売上高・営業利益 四半期推移 [前年同四半期対比 及び 直前四半期対比]

	19年度					20年度	(億円)	
	1Q	2Q	3Q	4Q	年間	1Q	差異 20/1Q -19/1Q	差異 20/1Q -19/4Q
売上高								
高機能材料	633	624	556	550	2,364	438	-196	-113
複合成形材料	228	231	229	224	912	101	-126	-123
マテリアル 計	861	854	786	774	3,275	539	-322	-235
ヘルスケア	398	391	403	347	1,539	362	-37	+15
繊維・製品	738	804	772	749	3,063	716	-21	-33
IT	109	122	112	143	486	135	+26	-8
その他	40	42	41	50	174	39	-1	-11
合計	2,146	2,214	2,114	2,063	8,537	1,791	-355	-272
営業利益								
マテリアル	56	46	29	28	158	-14	-70	-42
ヘルスケア	105	89	97	34	326	87	-18	+52
繊維・製品	10	18	14	12	54	51	+41	+39
IT	13	23	19	23	78	20	+7	-3
その他	-0	3	-1	2	3	-4	-4	-6
消去又は全社	-14	-11	-13	-19	-58	-14	+0	+6
合計	170	168	145	80	562	126	-44	+46

◆ 連結損益計算書 四半期推移

	19年度				(億円)
	1Q	2Q	3Q	4Q	20年度 1Q
売上高	2,146	2,214	2,114	2,063	1,791
売上原価	1,470	1,534	1,461	1,438	1,194
売上総利益	677	680	653	624	597
販管費	507	512	509	544	471
営業利益	170	168	145	80	126
営業外損益	-1	-6	-1	-11	-1
（内 金融収支）	-1	-5	-4	-4	-1
（内 持分法投資損益）	4	7	2	8	2
経常利益	169	162	144	69	124
特別損益	-18	-23	6	-93	-14
税金等調整前四半期純利益	151	139	150	-24	110
法人税等	40	37	47	21	48
非支配株主に帰属する 四半期純利益	3	5	5	4	5
親会社株主に帰属する 四半期純利益	108	97	97	-49	57

◆ 連結貸借対照表 四半期推移

	18年度				19年度				(億円)
	6月末	9月末	12月末	3月末	6月末	9月末	12月末	3月末	20年度 6月末
資産									
流動資産	5,205	5,465	5,227	5,239	5,116	5,255	5,280	5,053	5,026
固定資産	5,076	5,063	4,930	4,968	4,910	5,052	5,139	4,989	5,024
合計	10,281	10,528	10,157	10,207	10,026	10,307	10,419	10,042	10,049
負債・純資産									
負債	6,047	6,193	5,860	5,934	5,860	6,103	6,065	5,928	5,880
(内 有利子負債)	3,852	4,007	3,740	3,692	3,743	4,076	3,982	3,819	3,914
純資産	4,234	4,335	4,297	4,272	4,166	4,204	4,354	4,114	4,169
合計	10,281	10,528	10,157	10,207	10,026	10,307	10,419	10,042	10,049

◆ 主要経営指標推移

	15年度 実績	16年度 実績	17年度 実績 ^{*6}	18年度 実績	19年度 実績
ROE ^{*1}	10.6%	15.7%	12.5%	11.2%	6.3%
営業利益ROIC ^{*2}	12.7%	10.0%	11.2%	9.3%	8.7%
EBITDA ^{*3} (億円)	1,060	958	1,155	1,076	1,072
1株当たり当期純利益 (円) ^{*4}	158.1	254.9	231.3	232.4	131.6
1株当たり配当金 (円) ^{*4}	35	55	60	70 [*]	60
総資産 (億円)	8,234	9,641	9,820	10,207	10,042
有利子負債 (億円)	3,033	3,762	3,442	3,692	3,819
D/Eレシオ ^{*5}	1.01	1.11	0.88	0.90	0.97
自己資本比率	36.4%	35.1%	40.0%	40.2%	39.3%

*100周年記念配当 10円/株を含む

*1 「親会社株主に帰属する当期純利益÷期首・期末平均自己資本」にて算出

2 「営業利益÷期首・期末平均投下資本^{}」にて算出

*純資産+有利子負債-現金及び預金

*3 「営業利益+減価償却費（のれんを含む）」にて算出

*4 株式併合による株数の変化を反映したベースで記載

*5 「有利子負債÷自己資本」にて算出

*6 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 2018年2月16日）等を18年度から適用しており、17年度実績については当該会計基準等を遡って適用した後の数値を記載

3. 参考資料（見通し）

◆ セグメント別経営指標 [前期対比]

(億円)

	19年度実績		20年度 見通し	差異
	旧セグメント	新セグメント		
EBITDA ^{*1}				
マテリアル	573	449	300	-149
繊維・製品		124	155	+31
ヘルスケア	446	446	420	-26
IT	98	87	105	+18
その他		13	10	-3
消去又は全社	-45	-46	-40	+6
合計	1,072	1,072	950	-122

	19年度実績		20年度 見通し
	旧セグメント	新セグメント	
営業利益ROIC ^{*2}			
マテリアル	5%	5%	今回 非開示
繊維・製品	5%	4%	
ヘルスケア	41%	41%	
IT	-	49%	
合計	8.7%	8.7%	

*1 「営業利益+減価償却費（のれんを含む）」にて算出

2 「営業利益÷期首・期末平均投下資本」にて算出 *投下資本 = 純資産 + 有利子負債 - 現金及び預金

◆ 2020年7月までのニュースリリースまとめ

マテリアル

- New partnership to develop an innovative spacesuit layer provided with *Twaron*
- 炭素繊維「テナックス」が鉄道橋のケーブルに採用
- 炭素繊維とポリカーボネート樹脂が「WALKCAR」に採用
- 炭素繊維ショートファイバーの生産を増強
- 航空機向けに炭素繊維中間材料の展開を拡大 エアバス社の主力旅客機「A320neo」に採用
- 英国「National Composites Centre」とのパートナーシップを強化
- CFRTP製のピックアップボックスが PACE Award を受賞

繊維・製品

- 村田製作所と帝人フロンティアが 世界で初めて電気力で抗菌性能を発揮する繊維を開発
- 帝人フロンティアが「バーチャル総合展」を開催
- ウイルスによる二次感染リスクを低減する超軽量大型テント 陰圧「エアロシェルター」の販売を開始



「WALKCAR」



「PIECLEX」使用の繊維商品例



陰圧「エアロシェルター」の内観

◆ 2020年7月までのニュースリリースまとめ

ヘルスケア

- 米国のベンチャーキャピタルファンドに出資
- 「ヘルスケア化学研究棟」が稼働開始
- 地域包括ケアシステム関連新事業の創出に向けて (株)PREVENTとの資本・業務提携について
- 「骨折の危険性の高い骨粗鬆症」治療剤「アバロパラチド酢酸塩」の製造販売承認を申請
- A型ボツリヌス毒素製剤「ゼオマイン」の製造販売承認を取得



ヘルスケア化学研究棟

販売名	「ゼオマイン®筋注用 50単位」「ゼオマイン®筋注用 100単位」「ゼオマイン®筋注用 200単位」
一般名	インコボツリヌストキシンA
剤形	注射剤（バイアル）
効能・効果	上肢痙縮

- 上肢痙縮は、主に脳卒中の後遺症として、上肢の筋緊張の増加や伸張反射の興奮性亢進により生じる上位運動ニューロン症候群の1つです。主な症状は、運動麻痺、屈筋反射亢進、病的反射出現、知覚障害などで、患者さんの日常生活における動作の妨げとなります。
- 上肢痙縮の治療としては、リハビリテーション、経口筋弛緩剤、A型ボツリヌス毒素製剤療法を含む神経ブロック療法などがあり、中でもA型ボツリヌス毒素注射は「脳卒中治療ガイドライン2015」で、痙縮に対する治療法として推奨グレードAとされています。
- 「ゼオマイン®」はメルツ社の登録商標です。本剤は既に世界70カ国以上で、メルツ社が上肢痙縮、痙性斜頸、眼瞼痙攣、顔面上部の皺または流涎症を適応症として販売しています。

◆ 主要医薬品 国内売上高実績推移

(億円)

品名	薬効	19年度					20年度
		1Q	2Q	3Q	4Q	計	1Q
フェブリク®	高尿酸血症・痛風治療剤	99	100	105	82	386	87
ボナロン®*1	骨粗鬆症治療剤	25	24	24	21	94	21
ベニロン®	重症感染症治療剤	16	15	17	13	62	14
ソマチュリン®*2	先端巨大症及び下垂体性巨人症、 瘵・神経内分泌腫瘍治療剤	11	12	12	12	47	13
ムコソルバン®	去痰剤	9	8	10	7	34	6
ロコア®	経皮吸収型鎮痛消炎剤	6	5	6	4	21	5
ワンアルファ®	骨粗鬆症治療剤	4	4	4	3	15	3
オルベスコ®	喘息治療剤	3	3	3	3	12	3
ラキソベロン®	緩下剤	3	3	3	2	11	2
トライコア®	高脂血症治療剤	1	1	1	1	5	1

*1 ボナロン®/Bonalon® はMerck Sharp & Dohme Corp. (米)の登録商標です。

*2 ソマチュリン®/Somatuline® は Ipsen Pharma (仏) の登録商標です。

◆ 疾患分野別臨床開発段階 (2020年6月末現在)

* 承認取得/新規上市は直近1年間を記載

	臨床開発段階				
	Phase I	Phase II	Phase III	承認申請	承認/ 新規上市*
骨・関節 領域	TCK-276*1		NT 201L*2	ITM-058*3	NT 201*4
呼吸器 領域		PTR-36			
代謝・循環器 領域		TMX-049 TMX-049DN TMX-67HK		ITM-014T*5	
その他		JTR-161	GGs-MPA*6		GGs-CIDP*7 GGs-ON*8

*1 2020年2月 関節リウマチの適応取得に向けた第I相試験に着手

*2 「ゼオメイン」の適応拡大として開発中

*3 2020年5月に「骨折の危険性の高い骨粗鬆症」に対する製造販売承認申請を実施

*4 2020年6月に「上肢痙縮」に対する製造販売承認を取得

*5 「ソマチュリン」の適応拡大として、2020年3月に「甲状腺刺激ホルモン産生下垂体腫瘍」の適応追加に対する一部変更承認申請を実施

*6 「ベニロン」の適応拡大として開発中

*7 「ベニロン」の適応拡大として、2019年8月に「慢性炎症性脱髄性多発根神経炎（多巣性運動ニューロパチーを含む）の筋力低下の改善」に対する適応追加の承認を取得

*8 「ベニロン」の適応拡大として、2019年12月に「視神経炎の急性期（ステロイド剤が効果不十分な場合）」に対する適応追加の承認を取得

◆ 新規開発医薬品 (2020年6月末現在)

【承認取得/上市*】

* 承認取得/上市は直近1年間を記載

開発コード (一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
GGG-CIDP (乾燥スルホ化人免疫グロブリン)	慢性炎症性脱髄性多発根神経炎 (多巣性運動ニューロパチーを含む)	本剤の免疫調節作用により、末梢神経の炎症を抑制し、低下した筋力を改善することが期待される。	注射	共同開発： KMバイオロジクス社 (効能・効果追加) 2019年8月承認取得
GGG-ON (乾燥スルホ化人免疫グロブリン)	視神経炎の急性期 (ステロイド剤が効果不十分な場合)	本剤の免疫調節作用により、視神経の炎症を抑制し、視機能を改善することが期待される。	注射	共同開発： KMバイオロジクス社 (効能・効果追加) 2019年12月承認取得
NT 201 (インコボツリヌストキシンA)	上肢痙縮	A1型ボツリヌス毒素活性本体による筋弛緩作用により、上肢痙縮における骨格筋の緊張の緩和・改善が期待される。	注射	導入： 独メルツ社 2020年6月承認取得

◆ 新規開発医薬品 (2020年6月末現在)

【承認申請】

開発コード (一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
ITM-014T (ランレオチド酢酸塩)	甲状腺刺激ホルモン 産生下垂体腫瘍	ソマトスタチン受容体を介したアポトーシスの誘導 (直接的作用) や細胞栄養因子の分泌制御 (間接的作用) を介した作用により、甲状腺機能の正常化が期待できる。	注射	導入： 仏イプセン社 (効能・効果追加) 2020年3月承認申請
ITM-058 (アバロパラチド酢酸塩)	骨折の危険性の高い 骨粗鬆症	強力な骨形成作用により短期間で骨密度増加と骨折抑制効果が期待できる骨粗鬆症治療薬。既存薬に比べ、強い骨密度増加作用と安全性 (高カルシウム血症のリスク低減) が期待できる。	注射	導入： 仏イプセン社 2020年5月承認申請

◆ 新規開発医薬品 (2020年6月末現在)

【Phase III】

開発コード (一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
NT 201L (インコボツリヌス トキシンA)	下肢痙縮	A1型ボツリヌス毒素活性本体による筋弛緩作用により、下肢痙縮における骨格筋の緊張の緩和・改善が期待される。	注射	導入： 独メルツ社 (効能・効果追加)
GGS-MPA (乾燥スルホ化人免疫 グロブリン)	顕微鏡的多発血管炎	本剤の抗炎症作用と免疫調節作用により、自己免疫性血管炎を鎮静化させ、標準治療で残存する神経障害 (多発性単神経炎) を改善することが期待される。	注射	共同開発： KMバイオロジクス社 (効 能・効果追加)

3. 参考資料

◆ 新規開発医薬品 (2020年6月末現在)

【Phase II】

開発コード (一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
PTR-36	気管支喘息	新規作用機序 (CRTh2拮抗作用) によって喘息症状をコントロールする長期管理薬。 単剤による吸入ステロイドと同等の治療効果 (軽症患者) や吸入ステロイドとの併用による十分な治療効果 (軽症~重症の患者) が期待される。	錠剤	導入： 米GB001社
TMX-049	高尿酸血症・痛風	非プリン型キサンチンオキシダーゼ阻害薬。新規高尿酸血症治療薬として、有効性と安全性に優れることが期待される。	錠剤	自社開発品
TMX-049DN	2型糖尿病における糖尿病性腎臓病	非プリン型キサンチンオキシダーゼ阻害薬。新規糖尿病性腎症治療薬として、腎症の進展抑制が期待される。	錠剤	自社開発品
TMX-67HK (フェブキシスタット)	小児の痛風・高尿酸血症	痛風・高尿酸血症の小児患者に対する、フェブリク®の適切な用法・用量を設定する。 本剤の強力な尿酸生成抑制効果により、小児患者の血清尿酸値を適正な値に改善・維持することが期待される。	錠剤	自社開発品 (効能・効果追加)
JTR-161	急性期脳梗塞	健康な日本人の抜歯体から単離した歯髓由来細胞を原材料とする他家ヒト細胞加工製品。骨髄などに比べて細胞採取時の侵襲性が低く、国内で細胞ソースが調達できることが特徴。 免疫調整因子産生による炎症抑制、栄養因子産生による臓器保護・再生促進などの効果が期待される。	注射	共同開発： JCRファーマ社

◆ 新規開発医薬品 (2020年6月末現在)

【Phase I】

開発コード (一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
TCK-276	関節リウマチ	関節リウマチに特徴的なパンス増生の主要細胞である滑膜線維芽細胞に直接作用して増殖を抑制することで抗リウマチ効果が期待される新たなクラスの経口治療薬。	錠剤	自社開発品

◆ 非財務情報 ESG外部評価

GPIFの4つのESG指数全ての構成銘柄に採用

帝人は、年金積立金管理運用独立行政法人（GPIF）がESG投資の運用にあたって選定する「FTSE Blossom Japan Index」、「MSCI ジャパンESGセレクト・リーダーズ指数」、「MSCI日本株女性活躍指数（WIN）」「S&P/JPXカーボンエフィシエント指数」の4つの指数全ての構成銘柄となっています。



FTSE Blossom
Japan

2020 CONSTITUENT MSCIジャパン
ESGセレクト・リーダーズ指数

2020 CONSTITUENT MSCI日本株
女性活躍指数 (WIN)



THE INCLUSION OF TEIJIN LIMITED IN ANY MSCI INDEX, AND THE USE OF MSCI LOGOS, TRADEMARKS, SERVICE MARKS OR INDEX NAMES HEREIN, DO NOT CONSTITUTE A SPONSORSHIP, ENDORSEMENT OR PROMOTION OF TEIJIN LIMITED BY MSCI OR ANY OF ITS AFFILIATES.

THE MSCI INDEXES ARE THE EXCLUSIVE PROPERTY OF MSCI. MSCI AND THE MSCI INDEX NAMES AND LOGOS ARE TRADEMARKS OR SERVICE MARKS OF MSCI OR ITS AFFILIATES.

ESG関係に優れている株式銘柄として3つのプログラムに選定 (経済産業省と東京証券取引所との共同主催)

「なでしこ」

女性活躍推進



「ホワイト500」

健康経営推進



「攻めのIT経営」

IT活用推進



TEIJIN

Human Chemistry, Human Solutions